

### 3 「特別の教科 道徳」に生かす指導方法の工夫

道徳科に生かす指導方法には多様なものがあります。ねらいに近づくためには、児童生徒の感性や知的な興味などに訴え、児童が問題意識をもち、主体的に考え、話し合うことができるように、ねらい、児童の実態、教材や学習指導過程などに応じて、最も適切な指導方法を選択し、工夫して生かしていくことが必要です。

#### 1 学習課題の提示

学習課題は、「なぜ、どうすれば、どのように」等の「問い」の解決や、「できるようになりたい、わかりたい」等の「願い」の実現のために解決しなければならないものです。

「主体的・対話的で深い学び」の実現につなぐために、学習課題と児童生徒が出会う場を必然的なものにしたたり、自分ひとりでは解決が難しい学習課題を設定したり、児童生徒が学習課題を解決するまでの過程の大切さを実感できるようにしたりするなど、工夫していきましょう。

##### 主体的な学びにつなぐ学習課題の提示



一人ひとりの考えを持たせるために心情円を活用し、①自分の場合と、②家族や大切な人の場合と、その理由は何かを考えさせる。

【導入】で「自分が脳死になった時、ドナーになりますか。また、その理由は何ですか。」また、「家族や自分の大切な人が脳死になっていて、臓器提供の意思を示していたら、それに同意しますか。また、その理由は何ですか。」と問いかけ、教材を提示した。「自他の生命を尊重するとはどういうことだろう」という学習課題を設定し、主体的な学びにつないだ。心情円を皆に見せて、意見を共有することで、自分と他者の意見の違いにふれ、様々な意見や価値観があることにも気づくことができた。

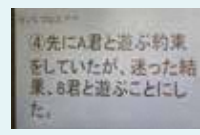
草津中学校3年「臓器ドナー」の実践



学習のまとめとして、一人ひとりが「仲間づくり3か条」を作る活動を仕組むことで、自分自身の学びとしてとらえることができるよう工夫した。これからの学校生活の中で、よりよい仲間づくりをしようとする実践意欲を育てるために、3か条を作る活動を取り入れた。仲間の対象を自学級とすることで、より自分事として捉えられるように工夫した。誰もが最初から「最高の仲間」ではないことを確認することで、今自分にできることを少しずつ積み重ねていくことがよりよい仲間づくりにつながることに気づくことができた。

矢倉小学校4年「なみだとえがおの『なでしこジャパン』」の実践

「ぜひ考えてみたい」と思える学習課題を設定し、主体的な学びにつながるように考えた。本時の内容項目「正直・誠実」の導入で、単に「誠実な人ってどんな人？」と誠実さをイメージさせるのではなく、日常の具体的な場面を提示することで、自分の生活とリンクさせて考えさせる手立てを講じた。



常盤小学校5年「手品師」の実践

#### 2 教材を提示する工夫

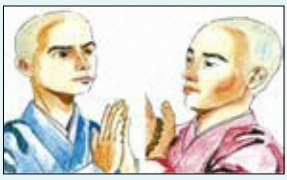
教材を提示する方法としては、読み物教材の場合、教師による読み聞かせが一般です。その際、例えば、紙芝居の形で提示したり、影絵、人形やペープサートなどを生かして劇のように提示したり、音声や音楽の効果を生かしたりする工夫などが考えられます。また、ビデオなどの映像も、提示する内容を事前に吟味した上で生かすことによって効果が高められます。しかし、多くの情報を提示することが必ずしも効果的だとは言えず、精選した情報の提示が想像を膨らませ、思考を深める上で効果的な場合もあることに留意しましょう。

##### 電子黒板による提示

教材の内容を捉えやすいように、電子黒板を活用して場面絵や話の概要を補助的に提示し、内容を理解した上で自分と関連づけながら考えられるように、内容理解のための手立てを講じた。

小学校では、場面絵を紙芝居にした教材提示が増えている。また、範読後の内容確認の場面で、人物関係やできごとをパワーポイントで提示し、話し合う前にあらすじの概要をつかませると内容理解につながる。

平成29・30年度推進校 老上中学校の実践



ICTを活用し、内村選手の演技を紹介することで、学習への意欲を高めた。また、内村選手の歩みを図式化し、視覚的に捉えやすくした。

困難を乗り越えようとする時、支えてくれる人がいることは大きな心の支えとなる。本教材では、試合会場の映像や音声を通して、内村選手にも心の支えとなり、応援してくれる人々がいることに気づかせたいと考えた。強い意志を持つためには、まわりの人々からの支えが力となることに気づき、道徳的価値について多面的に捉えられるようにした。

志津小学校5年「世界に羽ばたく航平ノート」の実践

### 3 発問の工夫

教師による発問は、児童生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める上で重要です。発問によって児童生徒の問題意識や疑問などが生み出され、多様な感じ方や考え方が引き出されます。そのためにも、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛けることが大切です。「～は何ですか？」など、知っているかどうかを問う一問一答の「質問」に偏った授業にならないようにしましょう。

#### 【発問の種類】

- 中心発問 授業のねらいに深く関わる中心的な発問
- 基本発問 中心発問を生かすための、その前後の発問
- 補助発問 中心発問等をさらに深く考えられるようにするための発問

#### 【発問を構成する効果的な手順】

- ①授業のねらいに深く関わる中心発問を先ず考える。
- ②それを生かすためにその前後の発問を考え、全体を一体的に捉えるようにする。  
基本発問⇔中心発問⇔基本発問

児童生徒の思考を促すには「何について考えるのか」を明確に示す必要があります。読み物教材であれば、「どの場面の」「どの登場人物の」「何について（判断や動機）」、考えるのかを具体的な発問で示さなければなりません。そのため、十分吟味する必要があります。

#### 学習指導案の記述例（一部抜粋）

児童生徒の意識が深まらないときに問いかける補助発問を考えておきます。

指導過程	学習活動と主な発問	予想される生徒の意識	教師の支援
展開前段	<p>(甚太の和尚に対する見方、考え方の変化を感じ取る。)</p> <p>○甚太は和尚のことをどう思っているだろう。</p> <p>◎あんなにかたくなだった甚太が庭掃除をしたのはなぜだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の仕事の邪魔をしているのに、人から好かれているから腹が立つ。</li> <li>・良い人ぶっているところが気に入らない。</li> <li>・和尚のせいで、びわの実が採れず腹が立つ。</li> <li>・普段の仕返しだ。やってやったぜ。</li> <li>・少しやりすぎたかな、怪我の様子は大丈夫かな。でも、和尚が悪いのだから仕方がない。</li> <li>・娘のことをかわいがってくれていたことがわかったから。</li> <li>・自分は何でも和尚のせいにしてきた。逆に和尚は全く人を責めていないということに気がついたから。</li> <li>・和尚への恩返し、つぐない</li> <li>・和尚の心の広さを知ったから。</li> <li>・自分の今までの行動を振り返ったから。</li> <li>・とめが亡くなってから、自分の殻の中に閉じこもっていた自分は情けないと思ったから。</li> <li>・自分の今までの頑固さを反省し、変わろうと思ったから。</li> <li>・自分が本当に納得のいく生き方をしようと思ったから。</li> </ul>	<p>(補助発問)</p> <p>甚太の生き方をここまで変えたものは何か。 なぜ、これまでの甚太は気づけなかったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の考えを整理するためにワークシートに書き、その内容を短い言葉に要約してカードに書き、発表できるようにする。</li> <li>・甚太の生き方を変えたものや寛容の心について多面的・多角的に考えを深めるために、黒板に貼られたカードをもとに話し合えるようにする。</li> </ul>

児童生徒の実態を把握し、予想される反応を考えることが大切です。深い学びにつながるための鍵になります。

平成29・30年度推進校 老上中学校3年「山寺のびわの実」の実践

#### 切り返しによる思考の深まり

全体交流では、児童生徒の発言をつなぎながら交流することが大切です。

ICTを効果的に活用し、「男女においてよりよい関係をつくるには、どうすればよいか」の考えをタブレットPCに書いてオクリンクで送った。電子黒板に児童の意見を映し、意図的に指名したり、児童同士の意見をつなげたりしながら、道徳的価値についてより深く掘り下げられるようにした。児童の意見に対して、「似たような考えは?」「もう少し詳しく話せる人はいるかな?」などの切り返しをすることで、一つ一つの考えをしっかりと深めていくことができるようにした。

草津第二小学校の実践

## 4 話し合いの工夫

話し合いは、児童生徒相互の考えを深める中心的な学習活動であり、道徳科においても重要な役割を果たします。考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に話し合いが行われるよう工夫することが大切です。座席の配置を工夫したり、討議形式を進めたり、ペアでの対話やグループによる話し合いを取り入れたりするなどの工夫も望まれます。タブレットの効果的な活用で、友だちの多様な考えを、より多く、より瞬時に知ることができ、その分、話し合いの時間をこれまでより確保しやすくなります。

### タブレットPCによる全体交流

中心発問では、思いを共有したり比較したりすることを通して、自分の考えにじっくりと向き合い深い学びにつながると考えた。タブレットに主人公の思いを書きこみ、送信して電子黒板で可視化し、共有・比較をした。子どもたちは友だちのいろいろな思いを見られることで「〇〇さんと似ているのだけれど・・・」など、友だちと比較して発言することが増えた。思いを類型化したり、比較したりすることができたので、主人公の思いにより迫ることができたのではないかと考える。また、意図的指名ができるので、効果的に話し合いを進めることができた。



笠縫東小学校5年「マンガ家になろう」の実践



自分の考えと人の考えとを交流し合い、そこから深まった自分の考えをタブレットに書いて送ってもらった。タブレットPCで意見の交流ができるように、(タブレット内の)拍手やコメント機能を使うようにした。一人ひとりの意見を共有できるので、大変効果的である。個々の意見の中から、どの意見をとあげ深めていくかは、教師のコーディネート力が求められる。

平成29・30年度推進校 老上中学校2年「一番乗りたけいち」の実践

### 名前マグネットの活用



草津小学校3年「ヒキガエルとロバ」の実践

個人で考えワークシートに記入し、小グループで話し合いを行い、様々な意見と出会うようにした。全体発表では、発表者だけの意見しか聞けないので、黒板には、名前マグネットを活用した。出てきた意見を羅列するのではなく、端的にまとめたり、類型化したりして、多様な意見に気づけるようにすることが大切である。



山田小学校2年「しっぽのないさる」の実践

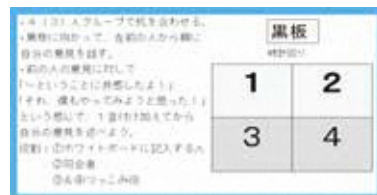
### 【話し合いの目的の明確化】

どのような形態で、何のために話し合うのか目的をはっきりさせて話し合うことが大切です。また、普段からグループでの話し合いを取り入れ、意見を交流する中で自分と異なる考えや感じ方をする他者の存在に気づくことができるように経験を積み重ねることも大切です。



### 【話し合いのルール化】

話したい・伝えたいという必然性のある問いを投げかけることは大前提ですが、話し合いをスムーズに進めるためには、話す順などをルール化することも必要です。発言に対してなぜそう思うのかと質問したり、他の人の意見を聞いてどう思ったかを含めて自分の意見を言ったりするなど、互いの意見に学び合いながら考えを深められる話し合いになるように、話型などを提示していくことも効果的です。



### 【教師のコーディネート力】

全体交流では、個人やグループのどの意見をどんな順で取り上げるのか、机間支援しながら話し合いの様子を座席表などに記録しておくことが大切です。本時でねらう価値に迫るために、どれだけ深く話し合えるかは、教師のコーディネート力にかかっています。



## 自分の気持ちを視覚化

「手伝ってあげようか」と声をかけたお兄さんと、「がんばれ」と応援したお兄さんの心を対比させて考える問いを仕組み、グループで交流することで多様な考えにふれ、対話的に学べるように工夫した。タブレットPCに二色のカードを用意し、お兄さんの行った親切のどちらがより温かいと思うかを考え、シートに示すことで、視覚的に自分の考えを表せるようにした。自分の考えを言葉で説明する際の補助的な道具として役立てた。

笠縫小学校4年「温かい言葉」の実践



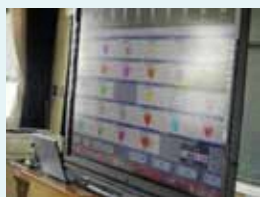
「ハートカード」で心情を視覚化し、それをもとに話し合いをすることで他者の意見を知り、自分の考えを深めることができると考えた。ハートカードを使って「ビザを発行する」「ビザを発行しない」のふたつの気持ちでどのように揺れているか考えた。ホワイトボードにそれぞれのハートカードを貼り付け、どんな気持ちで迷っていたかを班で交流した。

新堂中学校3年「命のトランジットビザ」の実践

考えや意見を視覚化することで気持ちの変化が一目でわかり、授業における考えの変容がよりわかりやすくなった。タブレット端末と電子黒板を活用することで学級全員の意見が一覧で見ることができた。それぞれの意見を汲み取りやすく、活発な意見交流ができた。

玉川中学校1年

「美しく自分を染め上げてください」の実践



「自分が手品師だったら『大劇場』と『男の子』のどちらをえらびますか？」の発問に対し、どちらかを選ぶことだけで考えが終わらないように、補助発問を用意し、その考えをより深められるようにした。(例えば「迷いに迷って、大劇場を選んでいたら手品師は本当に誠実ですか?」) こうした学習の展開により、「誠実」とは、単に約束を守ることでなく、互いのことを考えたうえで、迷いに迷って決断する姿であることに気づけた児童もいた。

常盤小学校5年「手品師」の実践



心のものさしを使って、気持ちを数値化させて表し、その理由について話し合えるようにした。自分事として考えながら、小鳥の心の葛藤に寄り添いやすくなった。

志津南小学校2年  
「ぐみの木と小鳥」の実践

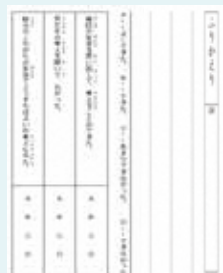


## 5 書く活動の工夫

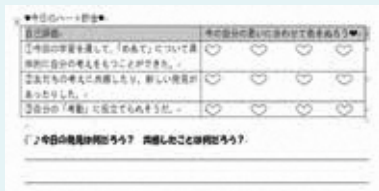
書く活動は、児童生徒が自ら考えを深めたり、整理したりする機会として、重要な役割をもちます。この活動は必要な時間を確保することで、児童生徒が自分自身とじっくりと向き合うことができます。また、学習の個別化を図り、児童生徒の考え方や感じ方を捉え、個別指導を行う重要な機会にもなります。さらに、ノートなどを活用することによって、児童生徒の学習を継続的に深めていくことができ、児童生徒の成長の記録として活用したり、評価に生かしたりすることもできます。精選した情報の提示が想像を膨らませ、思考を深める上で効果的な場合もあることに留意しましょう。

### 振り返りの工夫

本校独自のふりかえりシートを作成している。ふりかえりを書くときには、一度本時のめあてにもどるようにしている。



南笠東小学校4年  
「えっどうして」の実践



学校で共通のふりかえりシートを作成している。学年ごとに評価の内容を検討している。

平成29・30年度推進校 老上中学校の実践

### 付箋を使ったグループ交流

付箋に意見を書いて、グループで発表した後、それらを似た意見ごとにグルーピングするようにした。他の人の意見と自分の意見の共通点や、相違点を見つけながら、話し合いを進めることができた。



高穂中学校2年  
NHK for school ココロ部「カメラマンの選択」の実践

## 6 動作化、役割演技など表現活動の工夫

児童が表現する活動の方法としては、発表したり書いたりすることのほかに、児童に特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技の工夫、動きや言葉を模倣して理解を深める動作化の工夫、音楽、所作、その場に応じた身のこなし、表情などで自分の考えを表現する工夫などがよく試みられます。また、実際の場面の追体験や道徳的行為などをしてみることも方法として考えられます。

### 役割演技による動作化の工夫

教師と児童の会話形式での役割演技では、子どもを大切に思っで見回りをするルーおばあちゃん役に教師がなりきって、児童からの言葉を受けてそれに返答することで、会話がキャッチボール形式になるように意識した。また、同時に5、6人の児童を指名し、分団の登下校の様子を再現することで、より多くの児童に発言の機会をつくった。

ペアでの役割演技や教師と児童の会話形式での役割演技をしたり、それをみたりすることで、様々な意見と出会い、ありがたいの気持ちの伝え方にもいろいろな表現があることに気づくことができるようにした。

玉川小学校1年「はちさんのバッジ」の実践

ぼんすけの心の動きを考えることができるように役割演技を取り入れた。役割演技をすることで、実際ににらまれたときのぼんすけの気持ちが考えやすくなった。また、見ている他の子どもたちにも臨場感が出て、気持ちに迫ることができた。



老上西小学校2年「ぼく、よびにいく」の実践



役割演技でうさぎのきつねに対する優しい気持ちについて考えることで、きつねの涙のわけについて迫ることができた。

老上小学校1年「くりのみ」の実践

## 7 板書を生かす工夫

道徳科では黒板を生かして話合いを行うことが多く、板書は児童にとって思考を深める重要な手掛かりとなり、教師の伝えたい内容を示したり、学習の順序や構造を示したりするなど、多様な機能をもっています。板書の機能を生かすために重要なことは、思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、教師が明確な意図をもって対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫をすることが大切です。学習の目標や課題、学習の流れを板書したり、児童生徒の発言を整理して板書したり、課題を解決する鍵となった言葉を板書したりして思考を深める手掛かりとなる板書の工夫をしましょう。

### 思考を深める板書

本時の内容項目にかかわり、思考を深める手掛かりにするためには、教材の内容のみの板書で終わらせないことが大切です。



老上西小学校2年「ぼく、よびにいく」の実践

児童の発言を整理して短くまとめたり、類型化したりして、多様な意見に気付かせる工夫をすることが大切です。話合いの中で、児童生徒の発言から出てきた鍵になる言葉をまとめていくことがポイントです。



平成29・30年度推進校 渋川小学校3年「なかよしポスト」の実践

登場人物の気持ちの葛藤を自分事として話し合えるようにするために心の重さを測る天びんで示した。言いたいけれど、こわくて言えない心の弱さと、友だちを思うやさしい気持ちに気づくことができた。

本時で一番考えさせたい部分を中心にまとめることにより、焦点化した話合いにつながった。



平成29・30年度推進校 渋川小学校4年「温かい言葉」の実践

## 8 説話の工夫

説話とは、教師の体験や願い、様々な事象についての所感などを語ったり、日常生活問題、新聞、雑誌、テレビなどで取り上げられた問題などを盛り込んで話したりすることであり、児童生徒が授業の中で自覚した道徳的価値を実現していくことの意欲を高めたり、授業に余韻をもたせ、印象を深めたりするものです。特に、教師が自らを語ることによって児童生徒との信頼関係が増すとともに、教師の人間性が表れる説話は、児童生徒の心情に訴え、深い感銘を与えることができます。なお、児童生徒への叱責、訓戒や行為、考え方の押し付けにならないよう注意する必要があります。

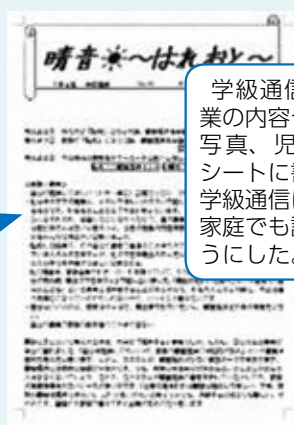
## 9 授業改善に向けての情報発信

授業改善の充実に向けて、情報発信することも大切です。

### 家庭との連携を図る工夫

道徳の学習の様子を家庭等に発信することにより、協力・連携を図りましょう。

学級通信を発行し、自分の考えを書いたワークシートの意見を紹介した。この授業をきっかけにして、臓器提供の意思や家族との関わりについて、教室で生徒と話をする機会が増えた。



松原中学校3年「臓器ドナー」の実践

学級通信により、授業の内容や授業風景の写真、児童がワークシートに書いたことを学級通信に掲載し、各家庭でも話題になるようにした。



玉川小学校1年「はちさんのバッジ」の実践

### 実践への意欲を高める工夫

教室や校舎内などの環境を整備し、豊かな心を育むことができるように、道徳的実践への意欲を高めましょう。



道徳の学習の足跡 (渋川小学校)



学年掲示板 (老上中学校)



全校掲示板 (草津第二小学校)

### 授業改善の意欲を高める工夫

明日からの授業改善につながる研修を計画的に設けることが大切です。また、授業研究会や研修会の学びを共通実践する工夫をしましょう。



教師も生徒になって模擬授業 (老上中学校)



校内研究通信による情報発信 (草津第二小学校)